

帝京大学医学部附属病院

contents

第6回帝京大学
医療連携セミナーを終えて
医療連携室

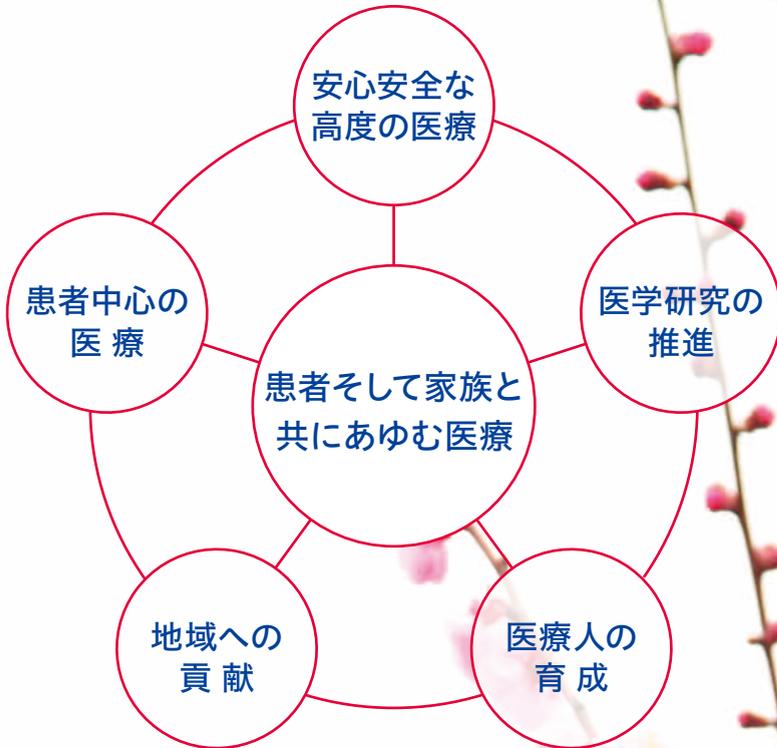
糖尿病・代謝疾患の
さらに強固な医療連携をめざして
内科学講座 教授
塚本 和久

帝京大学医学部附属病院は
高度救命救急センターへ

救急医学講座 教授
高度救命救急センター長

三宅 康史

編集後記



第6回帝京大学医療連携セミナーを終えて

医療連携室

平成28年10月27日に池袋のホテルメトロポリタンにて、第6回帝京大学医療連携セミナーを開催いたしました。今年には地域医療機関より440名、院内より113名、総勢553名の方々にご参加いただき、参加者数としては過去最多となりました。大変盛況のうちに終了することができ、ご参加いただきました地域の医療機関の皆さまには心より感謝申し上げます。

《今年のセミナーについて》

平成23年から始まった帝京大学医療連携セミナーも早いもので今回で第6回目を迎えました。今年も「地域で支える『医療』」をテーマに、当院の医療連携・相談部長である佐野圭二先生から「外科〜最後の砦として〜」という演題でご講演、放射線科 病院教授の近藤浩文先生から「放射線科における力テール治療」という演題で活動報告をしていただきました。

そして医療連携室からも毎年恒例となっており「活動報告」を行いました。帝京大学病院での近年の取

り組みをご紹介し、その後の結果や、途中経過、問題点までお話しし、地域の医療機関の先生方から大切な患者さんをお送りいただく立場として、多職種が協力し、チーム一丸となって業務にあたっていらっしゃることをご報告いたしました。

《おわりに》

講演会からすでに満席近くの方々にご参加いただき、会場の広さの関係でご不便をおかけした部分も多々あったかと思いますが、普段直接顔を合わせる機会が少ない分、本セミナーを通じて、私たちが目標とする「顔の見える連携」を実現することができたことを幸いに思います。ご参加いただいた皆さまには改めて感謝申し上げます。これからも帝京大学病院と地域の医療機関のつながりをより一層強固なものにし、「地域で支える医療」を実現していくため、病院が一丸となって取り組んで参りたいと思えます。今度とも当院との医療連携にご協力を賜りますようお願い申し上げます。



糖尿病・代謝疾患のさらに強固な医療連携をめざして

内科学講座 教授
塚本 和久

2016年10月に、内科学講座内
分泌代謝・糖尿病内科に赴任しまし
た塚本和久です。糖尿病および脂質
異常症を専門としております。

ご存知のとおり、1970年以降の
日本人の生活習慣の変化、そして近年
の高齢化率の進行に伴い、糖尿病・脂
質異常症といった生活習慣病の患者
数は増加の一途をたどっています。
生活習慣病はサイレントキラーとい
われるように、そのコントロールが不
良であると生活の質の低下をもたら
す様々な合併症を招きます。

このような生活習慣病の治療には、
3つのチーム医療が必要と考えてい
ます。一つ目は、看護師や栄養士、薬
剤師などの医療スタッフとのチーム
医療です。生活習慣病治療には、食事
療法・運動療法といった生活習慣の
改善が基本であり、それには医療ス
タッフからの指導が欠かせません。
また、忙しい外来ではなかなか達成し
づらい患者の心理面でのサポートや、
注射手技の指導など、様々な側面で、

医療スタッフとのチーム医療が必要
となります。二つ目が、他科とのチー
ム医療です。糖尿病・脂質異常症は
動脈硬化症の最大の原因であり、さら
に糖尿病は様々な合併症をもたらし
ます。それゆえ、循環器内科、腎臓内
科、眼科、神経内科、整形外科など、ほ
んどすべての科との連携が必要と
なります。そして三つ目が、地域の先
生方とのチーム医療＝医療連携です。

近年、糖尿病治療薬の種類が多くなっ
たため薬剤選択に迷うことも多いか
と思いますし、糖尿病治療においては
新たなデバイスも開発されてきてい
ます。また2016年に上市された
皮下注射の脂質異常症治療薬も、使用
すべきかどうか迷うこともあるかと
思います。このように治療や治療方
針に難渋される場合や合併症の進行
程度を評価したい場合など、是非当科
にご紹介いただければと存じます。
また、地域の先生方の「かかりつけ医」
としての役割がより一層重視される
方向に診療報酬の改定が本年度行わ

れました。このことは医療連携を推
進するうえで福音であり、病状の安定
した患者さんは当科から積極的に地
域の先生方にご紹介させていただき
たく存じます。

私自身、会津医療センター在任中
は、病診連携として、会津若松市内、喜
多方市内の先生方と医療連携の会
（AMC-DMNET）、「喜多方糖
尿病診療を考える会」を開催させて
いただき、先生方のご要望も聞きなが
ら連携小冊子なども作成し、地域全体
の糖尿病および代謝疾患の更なる医
療レベルアップに微力ながら努めさ
せていただきました。その時の経験
を活かし、実りある医療連携の会の開
催、そして地域の先生方との風通しの
良い医療連携に貢献したいと考えて
おります。どうかよろしくお願いい
たします。

お酒を飲んでもいいですか？

間食をとってもいいですか？

間食のカロリーは1日の総カロリーに食めてください。
一服には、間食の前か後の食事のカロリーを間食の
カロリーで減らします。
具体的なとり方は、主治医に確認してください。

間食をとる時は・・・

① 1〜1.5単位 (80〜120kcal) を目安にする。
牛乳1杯 (コップ約1杯) 全脂無糖ヨーグルト (小カップ2個程度) パナナ半1本

② スナック菓子などを避け、牛乳や果物をとる。

AMC-DM NET 連携小冊子
(患者さんへの配布資料のページ)内科学講座 教授
塚本 和久(つかもと かずひさ)

1986年東京大学医学部卒
1989年東京大学医学部附属病院第一内科入局
1992年東京大学医学部附属病院第一内科助手
1994年ペンシルバニア大学留学
1998年東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝内科助手
2007年東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝内科講師
2010年福島県立医科大学会津医療センター準備室教授
2013年福島県立医科大学会津医療センター糖尿病・代謝・腎臓内科教授
2016年10月より現職

お問い合わせ先:

帝京大学医学部附属病院
医療連携室

TEL: 03-3964-1498

FAX: 03-3964-9849

紹介状をお持ちの方の
初診外来予約。

救急医学講座 教授 高度救命救急センター長

三宅 康史

2017年1月、高度救命救急センターの指定を受けました。

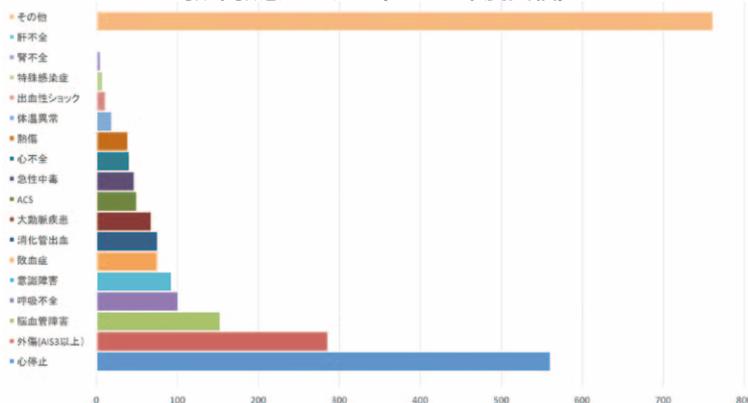
「高度」救命救急センター（以下高度）は通常の救命救急センターとどう違うのか。厚生省医政局資料（2013年9月18日付）^{※1}では、特殊疾患患者に対する医療を確保する目的に、救命救急センターに収容される患者の中で、特に広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒疾患患者の24時間体制での受け入れと、それを可能とするため必要な診療体制（特に手術室）および必要な医療機器を整備している事がその要件となっています。通常の救命救急センター業務に加え、上述の3病態への24時間体制での対応が求められる一方、必要な医療機器購入のための支援や診療報酬への追加加算もあります。

救命救急センターは2016年8月1日現在で、全国に284カ所設置され、そのうち高度は36カ所です^{※1}。東京都には23区に日本医大（1993年全国第1号）、多摩地区に杏林大学（1995年10カ所目）が高度として長らく機能してきましたが、昨年8月の都立墨東に続き、このたび帝京大学医学部附属病院が正式に37カ所目として2つは、ここ数年三次救急医療機関と

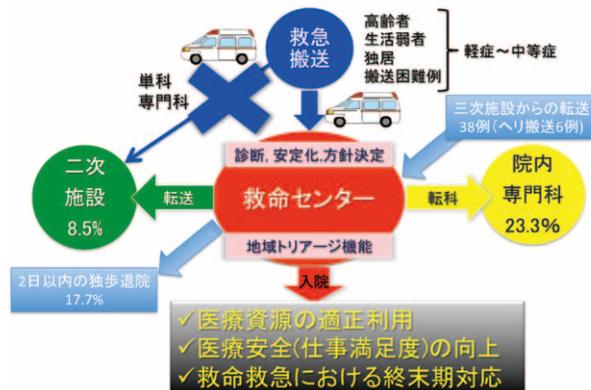
して常に1位、2位を分け合う患者受入数を誇っています。更にその数は毎年増加しています。2015年度の当センターの年間受け入れ症例は2,398例（都内2位）で、重症外傷例が特に多く、応受率（断らずに患者を受け入れる率）は97%（都内1位）です（図1）。受け入れ後2日以内に二次医療機関への転送した例が8.5%、2日以内の退院が18%近くあります（図2）。現場で緊急度・重症度判断に迷った症例や搬送困難例をすばやく一旦受け入れ、確定診断と状態を安定させた後に専門科への転科や転院を考慮する事で、救急車や地元の1次2次医療機関を含む医療資源の適正利用だけでなく、我々医療スタッフの仕事満足度の向上にもつながっています。

2016年、当センターの総受入数は2,500を突破しましたが、上述の3病態の症例は実際にはそれほど多いわけではありません。むしろ高度の高度たるゆえん、それはこれまで積み上げてきた総受入数、応受率、重症外傷受入数とともに、他の三次救急施設からの受け入れが年間40例近くあるという事実そのものであると考えています。

(図1) 帝京大学医学部附属病院 救命救急センター(2015年度実績)



(図2) 救命救急センターをハブとした救急症例の流れ (2015年度帝京大学医学部附属病院実績)



救急医学講座 教授 高度救命救急センター長
三宅 康史(みやけ やすふみ)

1985年東京医科歯科大学医学部卒。同年東京大学医学部附属病院救急部入局。公立昭和病院脳外科、救急医学科(ICU)、外科を経て、1997年昭和大学医学部救急医学/同病院救命救急センター助手、2000年さいたま赤十字病院集中治療部長/救命救急センター長、2003年昭和大学医学部救急医学准教授、2012年より同教授/同病院救命救急センター長、2016年8月より現職。

文献

- 1) <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/000023220.pdf>
- 2) <http://www.jaam.jp/html/shisetsu/qq-center.htm>

お問い合わせ先:

帝京大学医学部附属病院
医療連携室

TEL: 03-3964-1498

FAX: 03-3964-9849

紹介状をお持ちの方の
初診外来予約。

合同市民公開フォーラム

もっと知ろう! がんの正しい知識 「前立腺がん・大腸がんの治療最前線」

12:30 **開場**

13:30 **開会の辞** 日本大学医学部附属板橋病院 病院長 平山篤志

ごあいさつ 板橋区保健所 所長 佐藤壽志子
板橋区医師会 会長 水野重樹

13:40 **第1部 「前立腺がん」**

座長：帝京大学医学部 泌尿器科学講座 病院教授 山口雷藏

講演 日本大学医学部 泌尿器科学系泌尿器科学分野 主任教授 高橋 悟

「知れば怖くない前立腺がん～広がる治療の選択肢～」

14:30 **休憩**

14:50 **第2部 「大腸がん」**

座長：日本大学医学部 内科学系消化器肝臓内科学分野 主任教授 森山光彦

講演 帝京大学医学部 外科学講座 教授 橋口陽二郎

「大腸がんの最前線～予防・診断・治療」

15:40 **質疑応答**

15:55 **閉会の辞** 帝京大学医学部附属病院 副院長 川村雅文
帝京大学医学部外科学講座 主任教授・帝京がんセンター長

●総合司会：日本大学医学部 内科学系消化器肝臓内科学分野 主任教授 森山光彦

2017年3月11日 土

13:30
?
16:00
(開場12:30)

会場：帝京大学 本部棟2階 臨床大講堂
(板橋区加賀2-11-1)

参加費
無料

定員：350名(先着順)定員になり次第締め切りとさせていただきます。

参加ご希望の方は医療連携室までお問合せください。

TEL03-3964-9830 (平日 8:30~17:00・土曜日 8:30~12:30)

共催：日本大学医学部附属板橋病院、帝京大学医学部附属病院、板橋区、板橋区医師会

後援：東京都、北区医師会、豊島区医師会、練馬区医師会

協力：認定NPO法人キャンサーネットジャパン、NPO法人腺友倶楽部(前立腺がん患者・家族の会)

